

京都の秋は永観堂

寺宝展

永観堂の重文・寺宝など展観

十一月八日(土)～十二月七日(日)

拝観時間 午前九時～午後四時

拝観料 一般千円 小中学生六百円

ライトアップ

本堂拝観と本尊みかえり阿弥陀如来参拝

十一月八日(土)～十一月三十日(日)

拝観時間 午後五時半～午後九時

拝観料 一般(中高生以上) 六百円



西山上人降誕会

毎年十一月九日は本山永観堂において、西山上人のご誕生を祝う降誕会(ごうたんえ)法要が厳修されます。十四歳で法然上人の弟子となり、以来法然上人がご入滅されるまでの二十三年間、上人のおそばにお仕えされました。そして、法然上人の教えを受け継ぎ西山派の祖として、お念仏のみ教えを多くの人々に布教されました。

この降誕会には、全国から僧侶、檀信徒が参詣に来られます。

西山上人降誕会

日時 十一月九日(日)

午後十二時十分 お説教

午後一時 法要

場所 総本山永観堂禅林寺

平成二十年十一月一日発行

浄土宗西山禅林寺派

常林院

月影



第 26 号

いけ
みず
池の水

ひと
こころ

人の心に

に

似たりけり

にご
す

濁り澄むこと

さだ

定めなければ

ほう
ねん
法然



地獄極楽はどこにある

江戸時代に白隠禅師（はくいんぜんし）という有名なお坊さんがおられました。

ある日のこと、一人の武士が白隠禅師のところへ訪ねてきました。そして、いきなり

「禅師、地獄と極楽はどこにございますか？」

とたずねました。

有名なお坊さんとして名の知れた白隠禅師をか
らかってやろうというわけです。

すると白隠禅師は

「あんたも地獄極楽を気にするとは、見かけによ
らず気が小さい者よのお。」と言いました。

武士はムツと血相をかえ、

「このくそ坊主めが、この俺をバカにするとはけ
しからん。一刀両断にしてやろうか。」

と怒りました。

それを見て白隠禅師は、

「それそれ、今のその心が地獄というもじゃ。」

と言うと、武士はハッと自分の心に気づき、

「これは失礼つかまつった。なにとぞおゆるし下
され。」と素直にあやまりました。

すると白隠禅師はすかさず、

「それそれ、今のその心が極楽というものじゃ。」
と言われたそうです。

地獄と極楽は、あの世にだけあるのではなく、
自分の心の中にもあるのだと教えています。

お経の話

じようどしゆうせいざんごんぎようしき

浄土宗西山勤行式 (赤本) 解説

肆誓偈 (二)

しせいげ

何が書いてあるの？

我至成仏道

がしじようぶつどう

名声超十方

みようししようちようじつぼう

究竟靡所聞

くきようみしよもん

誓不成正覚

せいふじようしようかく

離欲深正念

りよくじんしようねん

淨慧修梵行

じようえしゆうほんぎよう

志求無上道

しぐむじようどう

為諸天人師

いしよてんにんし

(訳)

さとりへの道を成し遂げたならば、私の名前はあらゆる世界を超えて響き渡ることでしよう。もし、すみずみまで響き渡らないようであれば、誓って仏とはなりません。

さまざまな欲を離れ、深く正しく物事を考え、智慧を磨いて清浄な生活を実践し、最高のさとりを求め、天人や人々を導く者となりましょう。

煩惱 (ぼんのう) から離れる

肆誓偈は、阿弥陀仏になる前の法蔵菩薩が、あらゆる人々を救うために誓った四十八の誓いを、四つの要旨にあらわしたものです。

今回は第三、第四の誓いです。

「名声超十方」の十方 (じつぼう) とは、東西南北とその中間の八方に上下を加えて「十方」といいます。つまり、「あらゆるところ」「あらゆる世界」という意味です。

「離欲」の欲とは、煩惱 (ぼんのう) のことと言えます。煩惱とは、心の奥に存在し身心を悩乱させるものです。人間にはたくさん煩惱があります。大晦日に除夜の鐘を、一〇八つくのも、煩惱の数が一〇八あるといわれるところからです。

煩惱の中でも、特に貪り (おさぼり)、瞋り (いかり)、愚痴 (ぐち) の三つはもっとも基本の煩惱といわれ、その中でも、ついついこぼしてしまう愚痴は煩惱の根本とされています。

法蔵菩薩は、これらのさまざまな煩惱から離れ、さとりを得て、人々を導いていきたいと誓っています。

あれこれ仏教用語

くしゃみ

ある時、お釈迦さまがくしゃみをしました。すると、弟子たちが一斉に「クサンメ」と唱えました。「クサンメ」とは古代インド語で「長寿」という意味です。インドではくしゃみをすると命が縮まるといって「クサンメ」と唱えて長寿を祈る風習があったそうです。

このクサンメは、

「休息万命（くそくまんめい）」
「休息万病（くそくまんびょう）」と漢字に音訳されています。これを早口で何度も言う、「クサメ」になり、クサメがなまって「くしゃみ」になったそうです。



仏事と作法

問）友引、仏滅などはどうして決まったのですか？

答）一ヶ月を五分割すると六日の周期ができます。この六日につけた名が、先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口で、六曜とか六曜星、六輝と呼ばれています。この六曜は足利時代に中国から日本に伝わった「諸葛孔明六任時課（しよかつこうめいろくじんときうらなひ）」という時刻の吉凶占いを日に転用したものです。それは旧暦の一日を次のように決めました。

正月一日・	七月一日	先勝
二月一日・	八月一日	友引
三月一日・	九月一日	先負
四月一日・	十月一日	仏滅
五月一日・	十一月一日	大安
六月一日・	十二月一日	赤口

つまり、旧暦の一月一日は毎年先勝、二日は友引、三日は先負と

続き、二月一日はいかなる順でも友引になり、三月一日は必ず先負というふうが続いていきます。

今日、多くの人はこの六曜にいろんな意味づけをして生活上の行動に制約をしています。友引の葬式は友を引いてよくないとし、大安は大きな安らぎをえて、万事によろしいとし、仏滅は終日悪い、としています。

しかし、もとをただせば友引は、進みも引きもしない勝負のつかない日の意味で、仏滅は初め「空亡」とあり、これが虚亡↓物滅↓仏滅と変化したもので、仏教とは関係のない単なる当て字です。

このように、六曜の示す日の吉凶は意味のないものですが、六曜で仕事の段取りをつけたり、行事の目安をつけたりして生活している私たちにとって、生活上、便利な決め事となっています。